

生徒指導だより 5月号

明るく 正しく 元気よく

内子町立内子小学校



5月のゴールデンウィークは、楽しく過ごせたでしょうか。子どもたちがそれぞれに楽しい時間を過ごせていたようで安心しました。今年度も、子どもたちが安心・安全に登下校したり校外生活を送ったりすることができるよう、気になることや困ったことがあれば教えてくださいましたらと思います。



さて、大型連休明けは生活リズムが乱れ、登校しぶりや不登校が多くなる時期です。子どもたちの様子が不機嫌な状態が続いたり、頭痛、腹痛をよく訴えたりするのは、サインである可能性があります。ご家庭で「今までと違うな、変だな」と感じたときは、お子様とよく関わって話を聞き、しんどさや困り感の原因を把握するなどの対応をお願いできたらと思います。教員も子どもたちに頭痛や腹痛などが続いたときは、本人やご家庭の方にお話を聞きながら、不安な気持ちに寄り添い、少しでも取り除いていけるように努めていきます。

学校を休み始めたら、できるだけ早い段階での復帰が大切です。休みを重ねると、欠席したこと自体がストレスとなって長期の不登校の原因となっていきます。休みが重なってきた場合は、とりあえず登校し、1時間でも多く学校で過ごせるよう促していきますので、ご家庭でもご協力をお願いいたします。

不登校（統計調査で用いる場合）の定義をご存じですか？

文部科学省によると、病気や経済的な理由などといった特別な事情がなく、「年間の欠席日数が30日以上となった状態」のことを指します。文部科学省の公表している「不登校の現状に関する認識」では、以下のように明記されています。

「不登校児童生徒」とは、「何らかの心理的、情熱的、身体的あるいは社会的要因・背景により登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもの」と定義しています。

近年の不登校児童生徒は、全国的にも増加の一途をたどっており、どの子どもが不登校になってもおかしくなく、誰にとっても身近な問題になっていると言えます。

不登校になる原因は、様々です。理由は個々によって異なりますが、大きく分けると、人間関係に関するものや学校生活に関するもの、本人自身の問題に関するもの、家庭環境に関するものなどが挙げられています。これらのうち、どれか一つが原因であるとは限らず、複数の原因が絡み合っている場合があります。

日々の生活の様子で変わったことや気になることがあれば、すぐに連絡していただくと助かります。どうぞよろしくお願いいたします。